# 一般財団法人　日本みち研究所
# 3.11伝承ロード研修会実施報告

## 1. 研修目的

本研修は、2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震と大津波により甚大な被害を受けた三陸沿岸市町（遠野市、釜石市、大槌町、宮古市）の震災伝承施設や三陸沿岸道路など復旧・復興事業の現場を視察し、また語り部の方々から災害の経験や教訓を学ぶものである。

研修を通じて得られた知見・気づき等により、職員の防災意識の向上等を期待する。

## 2. 実施概要

日　程　：2023年9月26日（火）～27日（水）１泊２日　大型貸切バス1台
参加者　：12名（森山専務理事、吉見参与、小山研究理事、
　　空間G2名、景観G1名、メンテG3名、地方創生G3名）
宿泊地　：ホテルルートイン釜石〈岩手県釜石市大町２丁目５−１７〉
企画協力：一般財団法人3.11伝承ロード推進機構　事業部長
　　近畿日本ツーリスト株式会社仙台支店

## 3. 行程

- １泊２日の研修を通じて、地域ごとに異なる震災伝承施設から多面的な情報を得る
- 語り部の方々の解説・講話により、災害経験や教訓を自分事として理解する
- バス車内における伝承アーカイブ映像の上映・解説により、さらに理解と知見を深める

【1日目】

| | |
|---|---|
| 10:40 | 新花巻駅集合（東京駅07:56発イメージ） |
| 11:00 | 新花巻駅出発 |
| 11:45～12:30 | 【道の駅遠野風の丘】昼食（45分） |
| 12:45～13:45 | 【3.11東日本大震災遠野市後方支援資料館】（60分）見学 |
| 14:25～16:55 | 【いのちをつなぐ未来館】【鵜住居川水門・防潮堤】<br>【釜石鵜住居復興スタジアム】<br>語り部（現地体験プログラム）2時間半コース |
| 17：10～ | 【ホテルルートイン釜石】宿泊 |

【2日目】

| | |
|---|---|
| 9:10 | ホテル出発 |
| 9:30～10:30 | 【大槌町文化交流センターおしゃっち】（60分）見学 |
| 11:15～12:00 | 【宮古市浄土ヶ浜】「うみねこ丸」乗船（45分）乗船時間：30分 |
| 12:10～13:05 | 【浄土ヶ浜パークホテル】昼食（55分） |
| 13:30～15:00 | 【津波遺構たろう観光ホテル】【田老防潮堤】見学（90分）<br>たろう学ぶ防災のガイドより説明 |
| 17:00 | 【盛岡駅】到着 |

## 4. 研修で得られたこと

～以下アンケートより～

**○語り部による、リアルな体験談や言葉**

・田老地区で実際に被災した語り部の話は胸を打つものがあった。

・知人や友人を無くした中で「忘れてはいけないこと、忘れないと前に進めないことをもある」という言葉が印象に残った。

・解説の方が、実体験者であり、リアリティがあった。

・語り部（説明者）の話からリアリティが感じられ、大変勉強になりました。

・語る途中で、当時のことを思い出されて、涙声になっていて、大変だったことが想像された。

・震災から12年たって、見た目には復興が進んでいるが、今も多くの不明者が残っている中、多くの人々が心に傷を持って生きている。町の住民の対立や行政への不信など遺恨を残している地域もあり、まだまだ根深い問題が続いているということを改めて知る機会となった。

**○想定外の災害を想定する、備えることの大切さ**

・ムダをなくすことが求められる社会ですが、「空振り」を「素振り」だと許容する雰囲気作りが大切だと思いました。

・想定外にも対応する、という心掛けが大事であり、これを常に意識する事は簡単ではないが取組んでいきたい。

・全てを想定することはできないし、やり過ぎも良くないと思いますが、オーバーに見えることでも、排除せず、できることは考えておくことが必要だと実感しました。

・地震から津波到達まで時間がないため避難が間に合わなかった人が被害にあっていたと思っていたが、話を聞くと釜石でも大槌でも田老でも津波に対する危機意識の低さによって被災した人が多いとのことであり、助かる命があったことは衝撃でした。

**○教訓から学んだ、自ら考える避難行動の重要性**

・避難にあたり、①バイアス：地震や津波は起きないとの思い込み、②集団心理：みんなと一緒であれば安心だとの思い込み、③エキスパートエラー：専門家によるミスリード（津波警報が3m以上で避難しない人が多かった）が反省点ときき、今後に活かしたいと思いました。

・同調バイアス、エキスパートエラーのリスクはそのとおりだと思いました。

・参加人数を増やすために一時避難所でない防災センターで避難訓練をしていたこと等が、被害拡大になってしまったこと、しかし、一方で、防災訓練をしていたからこそ、小中学校生は助かったことは、防災意識を持つための取組がいかに難しいかを考えさせられました。

・知識を意識に変える、という話しは大切で大きなことだと感じました。

## 5. 研修の様子

3.11東日本大震災遠野市後方支援資料館
実際の後方支援の際に使用した資料を拝見

いのちをつなぐ未来館
避難訓練時に避難場所として利用していた防災センターでなぜ160人も犠牲なってしまったのか

鵜住居川水門・防潮堤（高さ14.5m）
東日本大震災時は、この場所に15.1mの津波が押し寄せた

釜石鵜住居復興スタジアム
釜鵜住居小学校と釜石東中学校の全生徒が避難できた「釜石の奇跡」のルートに思いを馳せる

大槌町　全景
高台からみる大槌町は、内陸部への避難者が多く、旧市街地は空き地が目立つ

津波遺構たろう観光ホテル
たろう観光ホテルの社長がホテル６階から防潮堤を超える津波の様子を撮影した部屋で映像を視聴

田老防潮堤
「万里の長城」とも呼ばれた高さ１０メートルの長大な防潮堤も想定外の災害には耐えることが出来なかった

田老の津波記念碑
「大地震の後には津浪が来る／地震があったら此処へ来て一時間我慢せ」などの津波に関する教訓が刻まれている

盛岡駅にて

6. 参考：3.11伝承ロード推進機構メールマガジンでも紹介されました。

## 3.11伝承ロード推進機構メールマガジン　＃023

### （一財）日本みち研究所が3.11伝承ロード研修会を行いました

9月26日、27日の2日間、東日本大震災の実情や復興のコンセプトを学ぶため、参加者12名で、遠野市、釜石市、大槌町及び宮古市で3.11伝承ロード研修会を行ったので、その概要を紹介します。

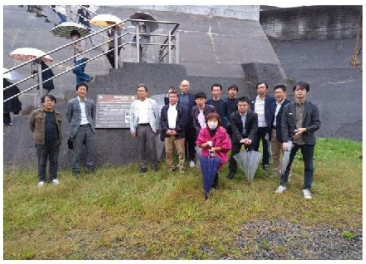
【行程（1泊2日）】

| 視察施設 |
|---|
| 9月26日（1日目）<br>JR新花巻駅発⇒3.11東日本大震災遠野市後方支援資料館⇒釜石市鵜住居（いのちをつなぐ未来館・現地体験プログラム）⇒ホテル着 |
| 9月27日（2日目）<br>ホテル発⇒大槌町文化交流センターおしゃっち⇒津波遺構「たろう観光ホテル（宮古市）⇒JR盛岡駅着 |

【3.11東日本大震災遠野市後方支援資料館】

【いのちをつなぐ未来館】

【大槌町文化交流センターおしゃっち】



【宮古市田老防潮堤】

参加者の方々からは、
・現場を見ておくことの重要性を改めて考えさせられた。様々な災害に対して、日頃から準備をしておく大切さ、それで安心してしまわないことなど、最近少し薄れていた防災意識を再認識した。（50代男性）
・複数の地区の語り部さんの話を聞く機会がなく、貴重であった。語る途中で、当時のことを思い出されて、涙声になっていて、大変だったことが想像された（30代男性）。
等の感想がありました。

発行：一般財団法人3.11伝承ロード推進機構　　2023年10月